



## <総合的な学習の時間について>

学習指導要領が全面実施となり、本校も「総合的な学習の時間」の内容について見直しを行いました。その結果、SDGsを3年間の学びの中心に据え、それぞれの学年で取り組んでいくこととしました。

【以下、3年生の学年通信より】

今年度の総合的な学習の時間の大きなテーマは、SDGsです。SDGsの読み方、何という言葉の略か、日本語訳は何か覚えていますか。世界に課せられた17の目標は他人事ではありません。「自分自身の課題」と考えて、一つ一つの行動を変えていきたいですね。

(読み方はエスディージーズ、Sustainable Development Goalsの略で、「持続可能な開発目標」のこと。)



中野区立第二中学校学校だより

若葉

第228号



令和3年5月14日

令和3年度第2号  
発行者：校長 松田 芳明

## <努力の天才>

競泳の日本選手権で、池江璃花子選手（20歳）が、女子100メートルバタフライの決勝で、優勝し、東京オリンピックのメドレーリレーの派遣標準記録を突破し、4月11日に、東京オリンピックの競泳の代表に選出されました。

女子100メートルバタフライの決勝、池江選手は「ただいま」とつぶやいて、スタート台へ向かいました。復帰直後から課題としてきたスタートでやや出遅れ、序盤は5レーンの相馬あい選手に先行を許し、頭1つ分の差を追いかける展開となりました。それでも50メートルのターンでは0秒03差に迫り、横並びでの接戦で迎えた最後の25メートル、池江選手が一気に抜け出してリードを奪い、トップでフィニッシュしました。

タイムは57秒77。電光掲示板を振り返り、3年ぶりの優勝、そして東京オリンピックのメドレーリレーの派遣標準記録を突破したタイムを確認した池江選手は、スタート台につかまっただけ涙を流し、しばらくプールから上がることができませんでした。

プールサイドで行われた優勝インタビューでは「本当にこの種目は優勝をねらっていなかったの、何番でもここにいることに幸せを感じようと思った。57秒が出るとは思っていなかった。つらくてもしんどくても、努力は必ず報われると感じた」と泣きながら答えた。自身も驚く会心のレースで、3年ぶりの日本一の座をつかみました。

皆さんは、このニュースを見たり・聞いたり・知ったりして、どの様に感じたでしょうか。私は、「努力をし続けることができる人＝天才」ということと、水を捉える力ということで、まさに天賦の才があるのだと感じました。

池江璃花子選手は3年ぶりの“王座奪還”を果たしたレース直後、「まさか、100（メートル）で優勝できると思ってなかったですし、5年前のオリンピック選考会よりも、ずっと自信もなかったし、自分が勝てるのは、ずっと先のことだと思ってたんですけど。勝つための練習もしっかりやってきましたし、最後は『ただいま』っていう気持ちでこのレースに入場してきたので、自分がすごくつらくてもしんどくても、努力は必ず報われるんだなんていうふうに思いました。」大粒の涙を拭いながらも自身が歩んできた道のりをそう表現しました。

池江選手は、おとしし2月に白血病と診断されて闘病のため競技を離れました。およそ10か月の入院生活などをへて、白血病の治療を乗り越えてプールに戻ったのが去年3月、最初は練習でチームメートについていけない日々が続き、「『もう自分、ダメなんだな』みたいな、落ち込んだ時期がけっこう長く続いた」と振り返っています。

闘病の影響で体重は一時15キロ以上落ち、筋力も大きく低下。競技復帰は決して簡単な道ではありませんでした。それでも、持ち前の負けん気は衰えていませんでした。

まだ筋力が戻りきらずスタート台を蹴り出す力が弱いため、0秒01でも速く反応しようと繰り返し飛び込み、気持ちが先走るあまりフライングすることもあったスタート練習。体重を取り戻すために“食トレ”に取り組み、夕食を食べた後にラーメンを詰め込んだこともあったそうです。

池江選手の東京オリンピックでの活躍を期待せずにはられません。

## <4/21 水曜日 I組 校外学習>

【以下、I組の学級通信より】

4月21日(水)夏の日差しに近く少し汗ばむ陽気の中、新宿区立 新宿中央公園に行ってきました。本来は、公共機関の使い方を含め遠出をするのですが、コロナ禍でも活動が可能な方法を探り、学校の近郊で徒歩圏内並びに外での活動という条件に該当する「新宿中央公園」にしました。生徒たちの生活圏なので校外学習としては少々物足りなさを感じたかもしれませんが、生徒一人一人に対する課題のハードルを高くしました。活動の評価としては、誰もがおおむね課題を達成することができました。

### 『 社 会 性 を 身 に 付 け る 』

- ◎ 集団の一員として行動できたか (社会人としてのルール・マナーを経験から学べたか)
- ◎ 友達とコミュニケーションをとりながら活動できたか (友達との絆を強めることができたか)
- ◎ 一人で買い物ができるか (少ない支援で買い物ができるか)

(上左) 出発式で、本日の目的の確認とともに「がんばっていきましょう」というエールを学級委員がみんなに送り、みんなもそれにこたえました。

(上中) 班ごとに一列で (スペースを保ちながらはみ出すことなく) 道を歩くことができました。

(上下) 先生の話もしっかり聞けました。





- (下左) 公園内でのオリエンテーリング、班で仲良く相談しながら活動しました。
- (下中) 春なのに強い日差しの中で、大木の下はとても心地よい場所でした。人だけではなく、カラスやハトや虫たちも集まってきて小騒ぎしました。
- (下右) 学校に到着。解散式で事件事故なく帰校でき、目的を達成したことを生徒同士で確認しました。



## <4/23 金曜日 第1学年 校外学習>

1年生は入学後、1泊2日の宿泊行事（山中湖方面）を行っていました。コロナ禍ということもあり、今年度は着実に実施することができるよう、日帰りでの実施としました。

【以下、1年生の学年通信より】

4月23日（金）、二中を離れて、河口湖周辺での校外学習を実施しました。目的は、「①体験学習を通して、自ら学ぶ意欲や態度を身に付ける」、「②集団での行動を通して、好ましい人間関係を築く」でした。この2つの目的を達成することはできましたか。また、この校外学習からどんなことを学びましたか。

普段の私たちが歩いている道は、きれいに舗装された道路です。ガイドウォーク中に歩いた道は、石があったり木の根が出ていたりして、「歩きにくい」と言っている人もいました。また、溶岩流によってできた溶岩樹型は、自然の力だけで作られた洞穴です。あんなに何人も人がすっぽりを入れてしまうような大きな穴を、重機も使わず作ってしまうとは、自然の力とは偉大です。クラフト体験では、木を削るところから始め、色やイラストを描きました。ネジと木のみで作られたバードコールを使って、「キュッキュッキュッ」と鳥に語りかけ、鳥が反応を返してくれるのを楽しみに待つ…なんて、東京での日常生活の中ではなかなかない経験でした。

私たちの生活は、科学や文化、AIの進化によりどんどん便利になっています。手作りをしなくても、わざわざ買い物に行かなくても、ネットを通して済ませることができます。しかし、時にはこうやって自然の中に身を置いて、手間暇をかけてみるのもいいですね。



### <4/30 金曜日 離任式>

4月30日（金）の6校時に、転勤された先生方をお招きして離任式を行いました。3年生はアリーナ、2年生は小体育館、1年生は教室、I組は大教室に別れ、対面とオンラインのハイブリッドな式となりました。

アリーナでは、高石副校長先生、太田先生（国語科）、小体育館では、森先生（理科）、神棒先生（養護）、I組大教室では、白瀬先生にお出でいただき、会場相互をGoogle Meetで接続し、先生からの話をいただき、生徒からはお礼の言葉と花束を贈りました。